2014年9月1日

A4一枚で伝える

大阪教区教化体制策定委員会発行

# 策定ホットライン

第2号

## 教化センターについて

策定委員会では具体的な策定を進める一方で、各方面からの聞きとりも行っています。7月28日の大阪教区教化センター関係者との聞きとり会議では貴重なご意見を賜りました。内容は大変多岐にわたりましたが、３点に絞ってご報告いたします。

★発足に掛けられた願い★

大阪教区教化センターは1970（昭和45）年、「地域教学の振興を地方自治に委ねる（南御堂新聞89号1面）」という願いにたち、さらには同朋の会推進本部として、大阪教区に於ける教学教化のシンクタンクという構想のもと、全国に先駆けて発足しました。

発足当時の規約第１条には「大阪教区の教化活動に必要な調査、研究および企画を行い、併せて人材の育成をはかり、もって時代社会の要請に応える教区の総合教化活動の推進教化を目的とする」とあります。2000年には「真宗同朋会運動推進に必要な研究、調査及び点検並びに教化を推進する人材の育成を行う」とされまた人材育成のための教区における独立機関として「教学研修院」の開設、「教化の助けになる資料の発行」（教化センター通信や法事のこころなど）を出版するようになりました。

★主幹の課題★

さて、教学のシンクタンクとして教化センターが機能するためには、やはり「教学的指導者」すなわち「主幹」はどうしても必要であるというご意見がありました。1987年の規約改正によりセンターには主幹を置くことができるようになっております。答申では「事務職をもって充てる」提案となっておりますが、その際、果たして教学的判断について誰が責任を取るのかと、充て職には問題が多いのでは、というご指摘を賜りました。

★研究班の課題★

研究班体制については、教化委員会とどのように連携できるのかが課題となりました。現状ではセンター紀要「生命の足音」における論文発表の場はあっても、公に発表する場がないこと、またその研究内容について独自性が保たれにくい経緯があったこと、さらにそのように教学研修院等で人が育っても活躍する場が少ない現実も指摘されました。

以上、設立から45年経った教化センターのさまざまな課題・善処策を聞かせていただきました。ただし機構における人選は意見が分かれ、充て職問題では「人の透明性は充て職だからこそ確保できるのでは」というご意見がありました。

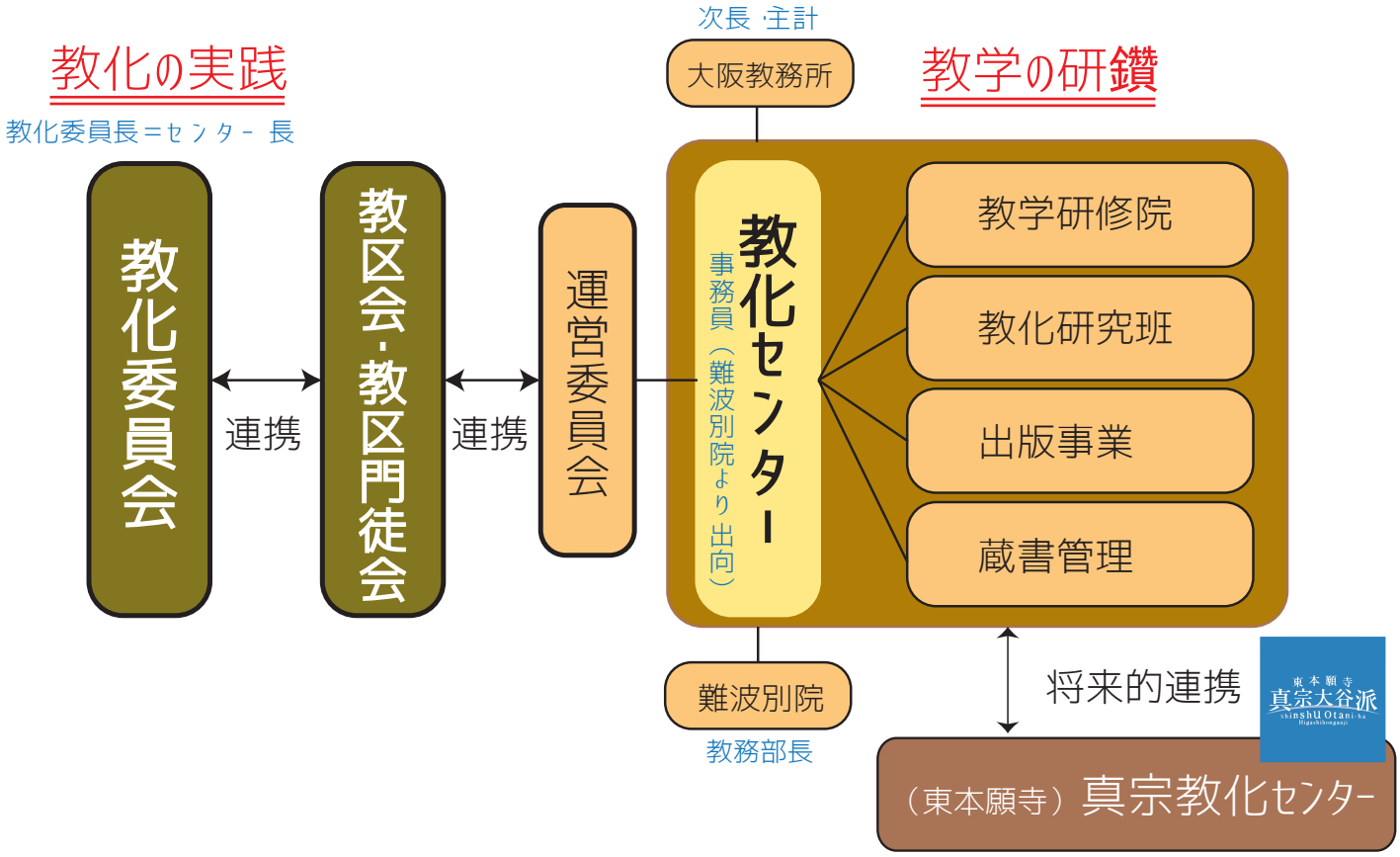
願われることは、教化センターが教化の現場から起こる願いや、教学を研究する者によって独自性を持って運用されるべき機関であることです。ただし、独立とは単に切り離すことではありません。現状の運営委員会や、教化センター、教化委員会はそれぞれどこまでが連携をもって機能できるか。今後さらなる議論が必要であると考えます。

さて、現在、所長巡回の折にも教務所を通して説明と意見聴取を行わせていただいております。また、今後各組の教化委員会にも策定委員から積極的に足を運ばせてもらい、ご意見をお伺いします。10月3日には公聴会も予定。大阪教区教化体制策定のため、皆さまの建設的なご意見をお願い申し上げます。

策定委員会

大阪教区の教化センターは現在
このような組織で運営されています！
人材の育成、教化についての研究、出版、
図書館としての役割など、わたしたちの
教学の研鑽をサポートをしてくれる機関です

▼教化センター組織図




# お越しください！公聴会へ！

**皆さん、大阪教区の教化について、興味と関心を持ってください！**
**そして将来を見据えて、ご意見やアイデアをください！**
**お寺が活性化するために！できることから始めましょう！**

**◆教化事業についての公聴会◆**

**10月3日（金）午後4時から（予定）**

**大阪教区教化センター会館研修室**

**※時間は現在調整中です。どなたでも参加できます。**